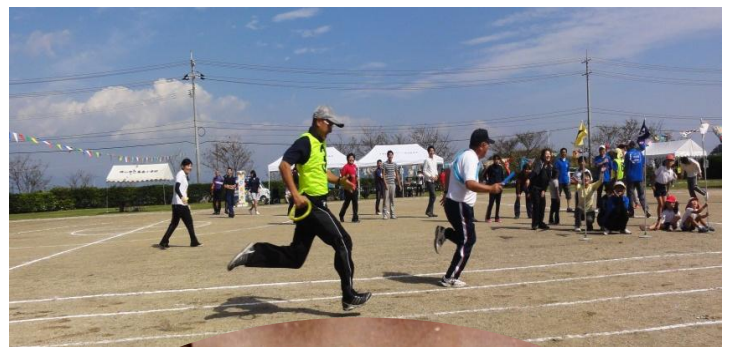




大津島(平成27年10月1日現在)
人口 306人(男129人 女177人)
高齢化率 76.8%

大津島の運動会



十月四日、秋晴れのもと、地域や学校の皆様の多大なご尽力により、第二十四回大津島地区大運動会が挙行された。

児童生徒数の減少などのため、運動会が地域の行事となつて二十四回目だそうであるが、それ以前は各学校の行事であつた。

プログラムに昭和二十五年頃の「大津小学校運動会の歌」が紹介され、昼食の時に歌が流されたが、その当時の写真を掲載した。

児童数は歌にもあるように二百近く、観客は校舎の窓にも石積みみの防波堤の上にも溢れ、盛大を極めた。

大津小学校も馬島小学校も明治十三年(一八八〇)の創立であるから、大津島の運動会は一三五年の歴史を持つと思われる。

今年の児童は幼稚園小学校合わせて三名であつた。

たとえゼロになつても、大津島の運動会が続くことを願つて止まない。

写真・文 末兼正純

中須北 棚田清流の会×大津島地区コミュニティ×若潮の会 交流会のご報告

大津島地区コミュニティ

観光協会 石田信行

九月六日(日)、大津島ふれあいセンターに四十名の人たちが集まってバーベキューを囲んで交流会が始まりました。

参加したのは周南市中須北の棚田清流の会の皆さん、大津島出身者の会若潮の会の皆さんと地元コミュニティ役員です。市の北と南、山と海といったように大きく異なる環境にあります。が、どちらも地域の特性を生かした活性化に取り組んでいる点は同じです。

安達寿富コミュニティ会長、佐伯伴章清流の会会長の軽妙なあいさつで始まり、参加者はすぐにうちとけあい、会場のあちこちに自然に輪ができて、それぞれが取り組んでいる地域興し活動などに話が弾み、和やかな内にも熱気に包まれた会となりました。

最後に出された棚田と清流で作られたお米「米っ棚」を使っただおにぎりのうまかったこと、感動しました。



棚田清流の会

広報部 山本美千代

初の交流という事で、中須北からの参加者は、気持ちを構えていました、ところが、大津島に着くやいなや、一気に構えがなくなり、また。それは、島の方々の歓迎の温かさでした。

みんな一人ひとりが違う仕事ですし、島ならではのことは新鮮で、とても勉強になりました。

そして、山と海の違いを見つけることができたので、それをバネにこれからの交流の糧になればと思います。

島で体験した、回天記念館の平和教育、海のある生活、気さくな人柄、団結して行う様々な行事の話などは、私だけでなく、一緒に参加した高齢者もとても喜んでおられました。

このような楽しく有意義な一日を迎えられたこと、ありがとうございます。そして、皆様、お疲れ様でした。

これからも大津島と中須北との交流が続くことを願っています。こちらにも是非、お越しください。また逢いましょう。

若潮の会

代表世話人 野間久生

前夜からの雨で、ふれあいセンターの駐輪場が会場となりました。狭い場所が幸いしたのか、近くに顔を突き合わせ、乾杯もして、いよいよに飲み始め、いい雰囲気です。交流会が始まりました。佐伯会長からは、今後の活動について参考になる話を伺いました。交流会が進むにつれ、清流会のご準備には、ただ、ただ、啞然とするばかりで・・・、焼肉の材料等、品数、量共に圧倒されました。

この借りは、少しずつお返しをせねばと、中須北、「里のはな」を目指して、このシルバーウィークの最終日に行ってみました。生憎、店は休みでしたが、すり鉢状に広がる黄金色の棚田の風景を、素直に美しく、素晴らしい所だと感じ、泣かす米万歳!と、心の中で叫び、帰路に着きました。

是非、次回の交流会開催を目指して、活動の輪を広げたいと思います。

尚、十一月七日(土)八日(日)に、中須北でルーラルという祭りがあると聞き、是非行ってみようと思っっています。

知っちよるかね



「会えなくなつて…」

文＝松本 千恵子

さやけき月かげに 紫野
菊、島の秋の美しいひと
き。さてこの紫の野菊、じ
つはヨメナにはじまり、野
紺菊、シオンと何種類もあ
るんよね。この花の仲間で
頂点にだけ十輪余りの花
を咲かす珍しいのがあつ
たんじゃけど、遂に名前を
知ることもなくどうやら
絶滅したらしい。島にはこ
うしたい一つの間にか姿を
消した植物がたくさんあ
ることに最近気付いて、愕
然としよるんよ。

フデリンドウ。そして、
リンドウ、タツナミソウ、
宵待ち草、アキノキリン
ソウ、アマナ、オカトラ
ノオ、ウツボ草、センブ
リ、カタクリ、ネジバナ、
川原撫子、ニガナ、南蛮
煙管、オトギリソウ、金
水引等々、最近見てない
と思ひよるんじゃが、皆
さんどうじゃろうか。海
ホウズキも見んね。
過疎と猪に追われ、草
も伸び放題になつた間に
こんなことになつても
うた島の自然。ある人は
公園の沖でカワウソのよ
うなのが泳ぎよるのを見
よつたそうなし、田の中
の小さな溜め池には、鰻
もおつた。
無くしてしまつた事に
も気付かず無くした、た
くさんのもの。私らあは
実はどこかで一緒に大切
な何かを失つたんじゃあ
なからうか。今も昔も変
わらぬ大きな空を眺めつ
つ思ふ秋の日。

～若潮の会通信～

「運動会の思い出」

文＝野間 政信

到頭、「若潮の会通信」の担当が回ってきました。今回は大津島大運動会に参加するなら運動会について書いてもらいたいとの依頼です。そして今、運動会が終わって山口に帰って眠い目を擦りながら原稿を書いています。

私が小学生（昭和40年代）の頃の運動会はどうであつたろうか？実をいうと競技、成績について思い出がありません。しかし、2つの光景は鮮明に覚えています。1つは母親が作った弁当。重箱に入った巻寿司、いなり、そしてその取り皿（アルマイトの手塩皿）これが曲者です。柄まで覚えています。何なんでしょうね、この存在感。2つ目は父親がポケットサイズのウイスキーを飲みながら木陰から観戦（応援？）していた姿。考えてみたら飲み食いのことだけです。育ちがわかります。しかし両親に感謝『合掌』

さて、今日の運動会、地味でしたが感動一杯の運動会でした。飛び入り参加した観光客の若者も“楽しかった”の一言を残して帰っていきました。しかし、島民総出で1人何役もこなしてやつと進行ができる状況です。子供たちは思い出の1ページに加えることができたでしょうか？“友達に勝つた”、“こけてドベじゃつた”こんな友達との思い出は作れない。“若潮の会、島はどねえかならんのか、知恵は出んのか”そんなひろしのつぶやき（小言）が聞こえてきそうです。『反省』

私も競技ではリレーのトップランナーとして参加し、スタートラインに立ったときは久しぶりに心臓がドキドキしました。でも違う、あの時と何かが違う。早速、明日病院で心電図を撮ってもらおう。あ～眠い『Good Night』
‘2015/10/04 23:01

生まれ来てたら満州事
変、小学一年生で支那事
変、五年生で大東亜戦争、
高等科を卒業する年が終
戦となる。私には戦争体
験を語るものが無い。当
時の親達や先輩の苦労を
聞き想像するのみで、極
貧の海上生活は貧しき事
正常で、いじめられる事
は弱いから、忍耐のみが
生活の基盤として育てら
れた。早く成人して兵隊
さんになり国の役に立つ
者と成りたかつた。
我が家の三十トン余り
の小型機帆船、速力の出
ない老朽船も軍命令の徴
用船となり、老朽小型船
故に敵にねらわれがた
く、運送物資の増量に喜
び、我が家に送り来た分
厚い徴用船名簿の船長な
る父の名が記された本を
何度々々も見た。我が家も国
の為に役立つ事が出来ると子
供心に嬉しく思つた。
当時配給米は二合一勺であ
つたが、船用米として少し増
量があつた様に記憶する。祖
母は満州戦線で活躍する機関
銃兵軍曹の孫を誇らしげに語
り、武運を神仏に願ひ終戦を
待たずして帰還した。
昭和二十年四月某日、就職
の為徳山駅頭に立つ。出逢つ
た美少年は、七ツ釦は桜に錨、
予科練航空志願兵は小月航空
隊に向かうのか下り線へ。私
は、祖母の作りし草履を五足
持ち、上り線で下松笠戸ドッ
クへ。
その後、四ヶ月で終戦とな
る。治安維持法も知らず、大
東亜共栄圏、八紘一宇の精神
に踊り、大政翼賛会に統合す
るも我が家に国の情報が届く
すべもなく。つぶやく。

ひろしのつぶやき



「戦中10年」

文＝屋野 廣志



石田 ユキノ (いしだ ゆきの)さん

本浦出身。大正7年生まれ、97歳

Q 先日の大津島敬老会の出席者の中で最高齢ですよ。元気の秘密は何ですか？

A 小さいころから、甘いもんが好きでした。まんじゅうも好きじゃけど、チョコレートが一番です。

Q ごはんのおかずは何が好きなんですか？

A 牛肉がええです。カシワやら他の肉はどうもなりません。

Q ニシのオカに山があるけど、そこで採れたタケノコをよー食べよかったです。ここはサツマイモの産地じゃけーよう送りよかったです。

Q どこへ送ってたの？

A 船に乗せて防府に売りに行きよかったです。馬車に乗せて「イモはいりませんか」

ちゆうて町を歩くのいね。何回も行きよったら、得意先もできたりしました。

Q ご夫婦で？

A はい。ええ主人じゃったです。全体が好きでした。頭もよかったし、美男子じゃし。恋愛結婚じゃったです。

今も写真を持つちよります。ほら、男前でしょ。

Q 思い出話を聞かせて。

A 一度だけ息子の赴任先である八戸に、夜行列車で行ったです。東北の言葉はわからなかったです。

Q いいご家族ですね。

A 私じゃあ、八人兄妹じゃった。あの頃は、産み放題じゃいね。真ん中へんじゃったろうか。優しゅうに育ててもらったです。

Q 若かりし頃は？

A 学生の頃の同級生は四十人ぐらいです。山の上のアカシから「本浦のダイツボ」って、おびかれよかったです。

Q その後は？

A 卒業すると、女中奉公に出よったです。富海の龍谷寺や山下医院やらです。昔はそれがまりのようなもんじゃったです。

(聞き手・文 六郎万淳一)

「支所勤めのご挨拶」



文=安達 道代 (あだち みちよ)

少し前にテレビ番組の中で、詩人の谷川俊太郎さんが自作の「自己紹介」という詩を、ご自身で朗読されるのを見ました。詩人が自己紹介を詩にするとこうなるんだと、これを自分的にしたらと考えてみたりしましたが上手く出来るはずもありませんでした。私は詩人ではないし、谷川さん風にしたら模倣だと言われてもいけないので、普通に挨拶を文章で考えることにしました。

「若潮の会」や「潮流」に携わる皆さんの大津島に寄せる熱意に押されて引つ張られて、私にも出来ることがあればと微力ながらお手伝いをしています。今年の三月末日で定年退職をしてから、思いもしなかったお誘いをいただいたりして、お気遣いやら何やらを有難く感じていて、気がついてたらこの度は、十月から大津島支所で臨時職員として勤めさせていただくこととなりました。

徳山から朝は二便の船で来ます。ひと月のうちの十二日ぐらいの勤務です。本浦出身ですが、大津島について知ってる度が低くて、ご迷惑をお掛けすることも多いかと思えます。島と自分の再発見を楽しみながらやっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

～事務局からのお知らせ～

大津島地区社会福祉協議会よりお礼
平成27年度善意銀行へのご寄付をありがとうございます。
●預託者 安達 清登 様
亡妻 安達 千子代 様の香典返しとして
金 6万円 (市社協 12,000円 大津島社協 48,000円)

移動図書館<やまびこ号 Jr.>

11月20日(金) 12月22日(火)
●馬島巡航待合所 11:30~12:00
●刈尾巡航待合所 12:20~12:50

大津島の最新情報 更新中!!
<http://shunan-inaka.jugem.jp/>

次回発行日

平成28年 1月1日—第247号